



# スポーツ関連の支出

## - 家計調査結果より -



先日（2月9日）、第23回冬季オリンピック（<sup>ピョンチャン</sup>平昌オリンピック）が開会しました。また6月にはロシアでサッカーの世界大会が開かれるなど、平成30年はスポーツイベントの楽しい年となりそうです。そこで今回は、家計調査（二人以上の世帯、単身世帯及びそれらを合わせた総世帯）の結果から、スポーツ関連の支出を見てみましょう。

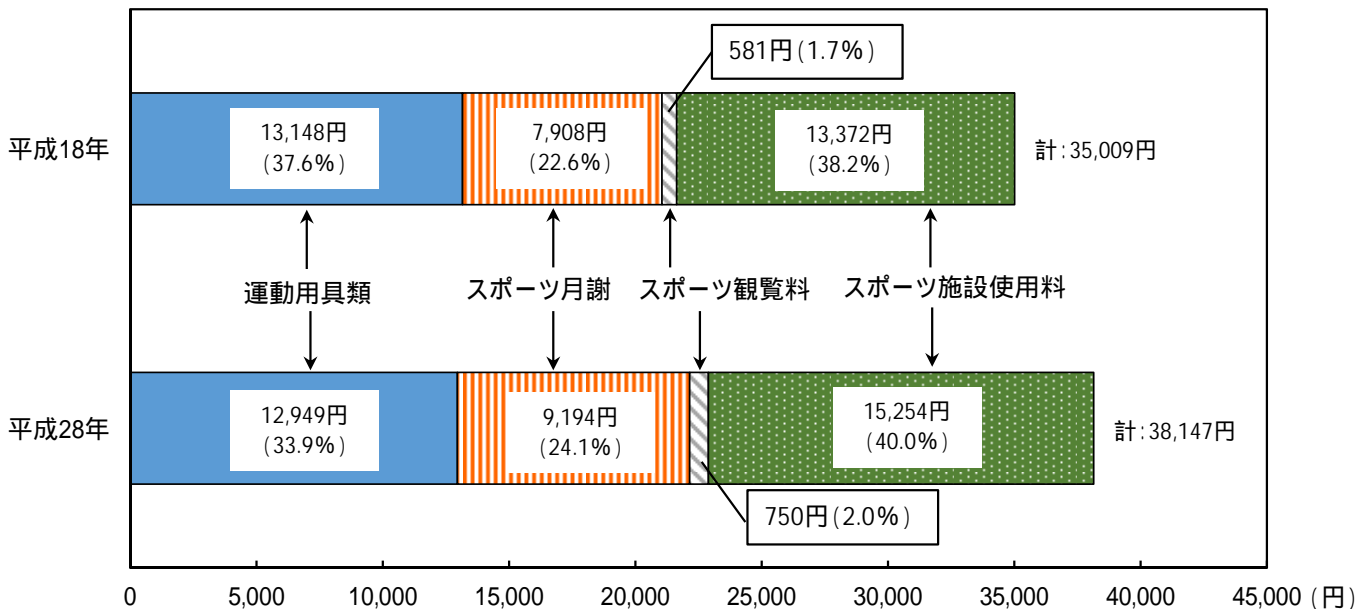
ここでのスポーツ関連の支出とは、スポーツ用品などの「運動用具類」、「スポーツ月謝」、「スポーツ観覧料」、またゴルフプレー料金、スポーツクラブ使用料、他のスポーツ施設使用料を合計した「スポーツ施設使用料」の支出を指します。

### スポーツ関連の支出は物（財）からサービスへ

総世帯におけるスポーツ関連の年間支出金額を平成18年と28年で比べてみると、18年は1世帯当たり35,009円だったのに対し、28年は38,147円と9.0%増加しています。

また支出の内訳を見ると、運動用具類の支出は18年の方が多いのに対し、スポーツ月謝、スポーツ観覧料、スポーツ施設使用料は28年の方が多くなっています。このことから、スポーツ関連の支出は物（財）の購入からサービスの購入へと移っていることが分かります（図1）。

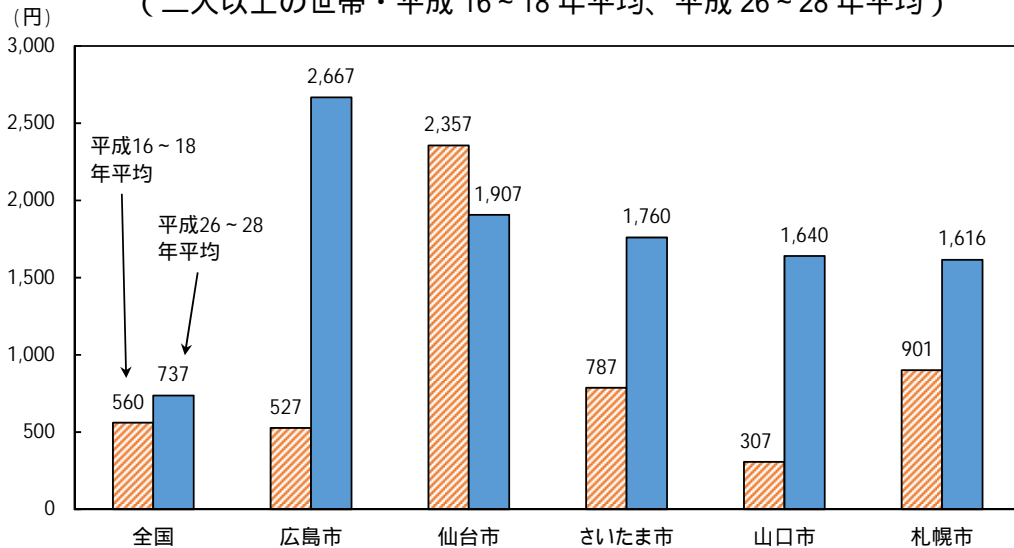
図1 1世帯当たりスポーツ関連の年間支出金額  
（総世帯・平成18年、平成28年）



プロスポーツのチームがある市で支出の多いスポーツ観覧料

次に、二人以上の世帯のスポーツ観覧料の年間支出金額について、平成26～28年平均の都道府県庁所在市別ランキングを見ると、プロスポーツのチームがある市が上位にあることが分かります。上位の市について10年前の平成16～18年平均と比べてみると、広島市、山口市で支出金額が大幅に増加した一方、仙台市では支出金額が減少しています（図2）。

図2 1世帯当たりスポーツ観覧料の年間支出金額 都道府県庁所在市別ランキング  
（二人以上の世帯・平成16～18年平均、平成26～28年平均）



単身の女性のスポーツ関連の支出は10年間で43.8%増加

最後に、単身世帯のスポーツ関連の年間支出金額について男女別に見ると、平成18年から28年の10年間で、男性は支出金額にほぼ変化がない一方で、女性は43.8%と大幅に増加しています。また男性はスポーツ月謝のみが増加した(6.8倍)一方で、女性は全ての品目が増加しています(図3)。

図3 1世帯当たりスポーツ関連の年間支出金額  
（単身世帯・平成18年、平成28年）

